金銀の夫婦木 樹齢30年

北折さん（藤塚）

日進の木・キンモクセイ物語

国道153号線の大通りから北に入った藤塚の閑静な住宅地に、キンモクセイとギンモクセイを育てている珍しいお宅があった。

門を入ると、広い日本庭園の2カ所に、それぞれきれいに剪定された樹高3㍍と4㍍ほどのモクセイの木があった。「チュンチュン」と鳴くスズメの姿も見え、心が安らぐ。いったいどちらが「金」でどちらが「銀」の木なのか。

「小さな白い花が付いている方がギンモクセイです。最初は『金』が大きかったけど『銀』のすぐ隣で家庭菜園を始めたらぐんぐん伸びて、『金』を追い抜きました」。北折聖浩（まさひろ）さん（73）、富士代さん（67）夫婦が、草取りの手を休めて出迎えてくれた。夫婦はちょうど30年前に家を建て、名古屋から移住した。木はその頃、造園して植えたという。

ギンモクセイはキンモクセイと同じモクセイ科の常緑樹。見た目もそっくりだが大きな違いは花だ。キンモクセイはオレンジ色の花を10月頃に咲かせるのに対し、ギンモクセイは年に数回白い花を咲かせ、ほのかな甘い香りを漂わせる。

夫婦が日進に住み始めた当時、地域には子育て中の同年代の人が多かった。富士代さんは昨日のことのように覚えている。「引っ越してきた頃、娘はまだ小学6年生。卒業間近の1月で、ここから名古屋市内まで地下鉄とバスで通わせました。この辺りには街灯がほとんどなくて、とても怖がっていましたよ」

赤池・日進駅周辺の街並みが劇的に変わり、買い物が便利になったことに住みやすさを実感している。一方、今も変わらない景色は、国道の反対側にある和合ゴルフ場。毎年、中日クラウンズの開催を心待ちにしている。聖浩さんは「今年も最終日に17番の池越えのショートホールから、大歓声が良く聞こえました。テレビの生中継も見て興奮しました」と話す。

夫婦は昔から犬好きで、7年前まで愛犬・虎太郎（こたろう）君（秋田犬・雄）を飼っていた。庭のキンモクセイの周りで過ごしていた姿が懐かしく、木には家族の思い出がぎっしりと詰まっている。今は夫婦2人で暮らしているが、東京にいる娘の家族らが日進に戻る計画もあるという。

夫婦木を夫婦で例えると、『金』は夫で『銀』は妻。富士代さんは言う。「孫たちとのにぎやかな生活も楽しみ。『銀』があまりに大きいと、家で私が強いと思われるので困るんです（笑）。わが家のシンボルツリーはキンモクセイですから」（広）

⬆キンモクセイ（右）とギンモクセイ（奥）を紹介する北折さん夫婦

⬆ギンモクセイの白い花